

長引く咳の話

川崎幸クリニック
呼吸器内科
後藤 直人



咳は、「熱が出た」「お腹が痛い」などの症状とともに、患者さんが医療機関を受診するきっかけとなる最も高い症状の一つです。咳の原因は、自然軽快する風邪や肺癌や結核などの重篤な呼吸器疾患、さらには呼吸器以外の心疾患に伴うものまで、その原因は多岐にわたります。

咳を主症状とした患者さんが受診した際、聴診や胸部レントゲンで異常が見つかる場合は、咳の原因疾患の診断は比較的スムーズにいくことが多いのですが、これらに異常がなく、経過が長くなる患者さんが昨今増加しております。

呼吸器学会では、咳の持続期間で咳を分類しています。(図1) 3週間以内の咳を『急性咳嗽(カインウ)』とし、それ以降の長引く咳嗽を3~8週間以内の『遷延性咳嗽』、8週間以上の『慢性咳嗽』と定義しています。なお、胸部レントゲンや聴診などに異常がないことが『遷延性咳嗽』と『慢性咳嗽』の条件として含まれます。(図2)

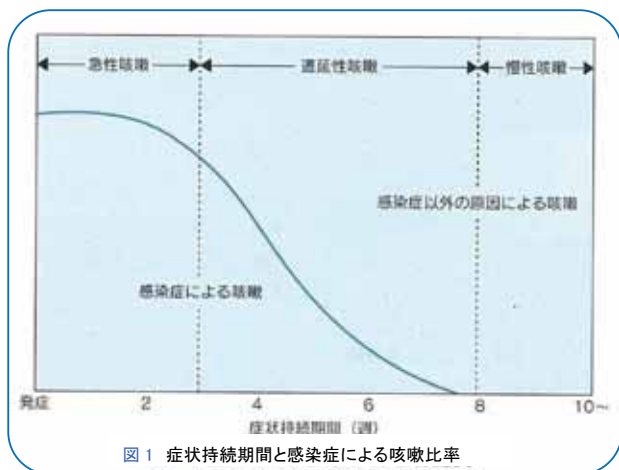


図1 症状持続期間と感染症による咳嗽比率

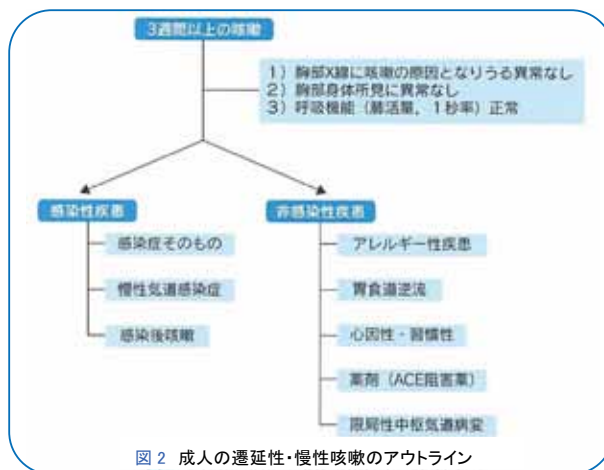


図2 成人の遷延性・慢性咳嗽のアウトライン

【参考文献】咳嗽に関するガイドライン (日本呼吸器学会)

咳の経過期間が短い場合は、ウイルス感染である風邪などの感染症の頻度が高く、咳が長引くほど、その原因疾患として感染症の頻度は低下します。経過期間の長い咳の原因としては、咳喘息、アトピー咳嗽、副鼻腔気管支症候群、感染後咳嗽の頻度が高いことが知られております。

外来診療でよく診断される咳喘息とアトピー咳嗽は、ともにアレルギー性疾患に分類されます。また、通常の細菌やウイルスと異なり、咳が遷延しやすい病原体で、昨今、耳目を集める疾患としてマイコプラズマや百日咳があります。これらは、急性期の咳症状から徐々に咳嗽が残り遷延する経過をとることが多く、最近特にその流行が指摘されており、実際に日々の診療でも多く見受けられます。

このように咳の原因は多岐にわたり、特に2~3週間以上長引く場合は風邪などの比較的軽い疾患以外の慢性疾患や重篤な疾患が隠れていることもあります。咳が長く続く場合は、医療機関を受診されることをおすすめします。



	月	火	水	木	金	土
午前	-----	-----	-----	松崎	濱野	-----
午後	後藤	堀地	後藤	後藤	-----	-----
夕診	堀地	-----	-----	-----	-----	-----



川崎市幸区南幸町 1-27-1
044-511-2112(予約)

